

夕陽會報



母校創立100周年記念式典挙行（挨拶に立つ星野副学長）

第213号



◆巻頭言◆

母校創立百周年に思う

夕陽會會長 橋田 恭一

（昭和39年卒）

母校、北海道教育大学函館校は、本年創立百周年を迎え、去る六月七日に函館国際ホテルにおいて、戦場カメラマン渡部陽一氏による講演会、記念式典、祝賀会等の関連行事を行いました。

この記念すべき年に函館校が地域協働専攻（二四〇名）と地域教育専攻（四五名）からなる地域国際学科として新たにスタートできたことを大変嬉しく思います。とりわけ、地域教育専攻は小学校教員を計画的に養成する教職課程として復活することになりましたが、そこに至る経過については、これまでの夕陽会報で詳細に報告してまいりました通りです。

特に、ここ三年余、教員養成の存続のために組織の総力を挙げて運動してまいりましたが、ついに願が結実したことを会員の皆様とともに喜ぶたいと存じます。顧みますと、北海道教育大学の源流は明治九年函館に開設された官立小学校教科伝習所に始まります。この伝習所の開設は、いち早く海外に門戸を開いた函館の町と深いつながりがあります。

当時、アメリカ合衆国をはじめ諸外国によって開国を余儀なくされた江戸幕府は、開国後、否応なしに海外の知識を学ぶ必要が生じて様々な取組みを始めます。安政三年（一八五六）に、蕃書調所という西洋文献学の学校が江戸につくられますが、この学問所こそ、後に開成所となった東京大学の前身であります。

一方、語学を基礎とした西洋技術の研究習得を唱えたのが、当時、函館に向向いていた函館奉行所の人たちであります。その中に伊予（愛媛県）の大洲藩士武田斐三郎成章がいました。彼は五稜郭の築城者として有名でありますが、斐三郎は

優れた蘭学者でもありました。彼は幕府の命を受け蘭学はもとより、航海・測量・築城・造船等を指導する諸術調所の教授となり、函館で八年間教鞭をとりまします。学生は少数ながら全国から集まり、山尾庸三（のちの宮中顧問官）・前島密（郵便制度創始者）・井上勝（鉄道制度創設者）・今井兼輔（海軍大臣）など、のちの明治の新日本を担う逸材が多数輩出しました。

こうした開明都市としての函館の気風が明治九年の小学教科伝習所につながっているのではありません。その後、明治十三年官立函館師範学校、明治十五年には県立函館師範学校が開設されますが、一県一校の明治政府の方針で、一旦、閉鎖されます。しかし、教員養成の逼迫から、大正三年四月、再び北海道函館師範学校として創立され、この年から数えて、この度目出度く百周年を迎えたわけでありまします。開学の校訓である「土地墾闢」「人民蕃殖」は、現代にも通じる高邁な精神であり、百五十年前に武田斐三郎がこの函館の地に抱いた熱き思いを受け継ぐ精神でもあります。

この記念すべき年に、豊かなコミュニケーション能力を発揮して地域を活性化できる人材の育成を特色とする国際地域学科がスタートしたのです。

私たち同窓会は、本学が地域社会のみならず北海道、ひいては日本の教育・文化・学術などの各界を担う優秀な人材を輩出する特色ある大学として発展されることを祈念しております。また、同窓会自身も、これまで以上に大学を支援していく決意であります。

顧問・参与会

平成二十六年六月十三日(金) 函館国際ホテル「高砂の間」において、第四回本部役員会に引き続いて顧問・参与会が開催されました。開会に先立ち、全員で「夕陽讃歌」を斉唱し会が始まりました。橋田会長の挨拶の後、議長に天野副会長が選出されて議事が進行しました。

報告・協議事項では、総会議案について審議され、奥崎幹事長ならびに林財政部長、笹原監査より会務・決算・監査の各報告と、平成二十六年度の運営方針・重点推進事項および予算案についての提案があり承認されました。

続いて橋田会長より、函館校の新学部に関する動向について説明があり、その中で会長は特に「新課程で学ぶ学生の就職対策を強化し、教員採用試験で高い合格率を示し、結果を出すことが大切」と強調。現在も函館校で行われているボランティア的な教採指導の成果についてふれるとともに今後の教採指導への期待を述べました。

総会・大懇親会

未来へつながる

夕陽会をめざして

平成26年度 夕陽会総会

(平成二十六年度の夕陽会総会は、六月二十一日(土) 函館国際ホテルで開催された。

審議に先立って挨拶に立った橋田会長は「夕陽会もあと四年で百周年を迎える。総会に先立って行われた全国支部長会議では各支部の支部長さんから今後の夕陽会の在り方を示唆する貴重なご意見をいただいた。ここ数年は函館校に関わる問題解決のために精力的に活動してきたが今後は未来を見据え、今後の夕陽会がどうあるべきかについて腰を据えて考えていきたい。今日は未来の夕陽会の方向づけを論議するスタートの日にしたい」と述べた。

次に議長として三島千春氏(函館支部)、盛繁 治氏(根室支部)、竹嶋 充氏(渡島支部)を選出し、役員選考委員・議事録署名名人を確認した後、議事および別室での役員選考に入った。

・大懇親会

於 函館国際ホテル



挨拶に立つ橋田会長



議長団挨拶

報告事項では、奥崎幹事長より平成二十五年度会務・事業報告が述べられ、続いて林財政部長からは、今年度の通常会費と基本金会計の報告が行われた。また笹原監査からはすべて適正に処理されている旨の監査報告があった。

母校関係では、橋田会長から、母校が四月より国際地域科学科として生まれ変わり、地域協働学科二百四十名(中高免許取得可能)と地域教育学科四十五名(小学校教員養成課程)に二専攻でスタートしたこと。六月七日に母校百周年の記念行事が開催され二百三十名が参加した旨の報告があった。

議事事項では、はじめに奥崎幹事長より平成二十六年度の運営方針並びに推進事項・事業計画の提案があった。本年度も「創造し行動する夕陽会」をモットーに次の六点を推進事項とし、特に重点項目(*重点項目)を明らかにして活動することが提案された。

①組織強化と運営の効率化

* キャンパス再編・新学科に対応した教職外会員の入会促進

* 夕陽会報二二三・二二四・二二五号の発行と電子的発行・配付の試行

②人材の育成

* 民間企業・地方公共団体に勤める若手会員の中核となる人材の育成

③財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

* 夕陽会百周年を見据えた計画的な財政基盤の整備

④研究・研修、文化事業の奨励

* 各支部の研修活動等の支援

⑤母校への支援と地域への貢献

* 母校の教採対策関係事業、就職対策関係事業への支援

* 在校生(会員予定者)に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の実施

⑥夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

* 百周年記念事業に向けた諸資料の

計画的収集・整理・アーカイブ化
また、林財政部長より平成二十六年度の予算案が提案された。質疑応答では、平成十年卒、母校教員の松浦氏が新学科の地域教育専攻の受検者が少なく受検倍率が低かったことにふれ、母校の受検者獲得にむけていっそうの支援をお願いしたい旨の発言があった。役員改選では橋田会長が引き続き会長に選出され、また次のように新役員が承認された。

○会長	橋田 恭一(昭和三十九年卒)
○副会長	繪面 和子(昭和三十九年卒)
○副会長	網野 重治(昭和四〇年卒)
○副会長	杉本 征年(昭和四〇年卒)
○副会長	天野 哲征(昭和四一年卒)
○副会長	青柳 史匡(昭和四二年卒)
○副会長	伊藤 皓嗣(昭和四四年卒)
○副会長	田面 茂樹(昭和四八年卒)
○副会長	小笠原正司(昭和五二年卒)
○副会長	高橋 登(昭和五三年卒)
○副会長	大堂 讓(昭和五三年卒)
○副会長	佐藤 久道(昭和五三年卒)
○副会長	岡村 宏安(昭和五四年卒)
○副会長	笹原 志郎(昭和五八年卒)
○監査	森下 英治(昭和五九年卒)
○監査	近藤 健(昭和六一年卒)
○幹事長	奥崎 敏之(昭和六〇年卒)



新会員紹介

平成26年度

夕陽会総会

平成26年6月21日(土)



総会風景

○副幹事長 齋藤 緑(昭和六〇年卒)
 ○副幹事長 平田新次郎(昭和六二年卒)
 ○副幹事長 永井 貴之(昭和六三年卒)
 (昭和59年卒 高丘小教頭 松浦 宏記)

同窓意識を確かめ合い 互いに絆を深めた 大懇親会

四百五十二名の夕陽会員の熱気に包まれた函館国際ホテル天平の間は、今まさに開会の時を迎えようとしています。開会に先立ち、絹野重治副会長の先導により、ご来賓の方々が入場し、会場には大きな拍手が鳴り響きました。今年も、函館市副市長中林重雄様をはじめ、各界より多くの方にご来賓としての参加をいただきました。

議会場では青柳史匡副会長による開会宣言で、いよいよ本年度の大懇親会の宴が始まりました。まずは恒例の「夕陽讃歌」の斉唱です。本年度も函館市立鍛神小学校の青山勝賢先生(昭和六十一年卒)が指揮を担当。参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽讃歌」が会場いっばいに声高らかに響きわたりました。

会長挨拶で、橋田恭一会長は、ご来賓を紹介した後、「母校は本年創立百周年を迎え、六月七日講演会、式典、祝賀会が盛大に挙行された。夕陽会の関係者も大学より三名の方が表彰を受けられた」と報告。「函館校も、四月より国際地域学科として地域協働と地域教育の二専攻でスタートした。特に地域教育専攻は、教員養成課程として復活したことをともに喜び合いたい。母校はこの新学科で百周年を迎えた。地域はもとより日本国内、世界へ向けて活躍する人材を輩出する大学となるよう今後も支援を続けたい。また、九十六周年を迎えたわが夕陽会も、今後は教職外で活躍する仲間をその輪の中に入れ、ますます活性化するように努力したい。今日は同期、同窓が大いに盛りあがっていただきた」と語られました。

ご来賓挨拶では、はじめに中林函館市副市長が、日頃から夕陽会会員が函館市の教育推進に尽力していることに謝意を述べられ、続いて「函館校が本年百周年という記念すべき年に、教員養成機能存続を求める声により新学科を創設して新たな歩みを始めたことを心よりお祝いしたい。今後とも地域の中核の高等教育機関として貢献することを心より期待している。函館市としても、北海道新幹線開業まで二年を切り、開業効果が十分あらわれるよう未来を見据えた街づくりのため各界とさらに連携を図りたい」と期待と抱負を述べられました。

次に挨拶に立った成田祥介北海道教育庁渡島教育局長からは、「管内の学力向上推進にあたって、会員の皆様が情熱と使命感をもった取り組みに感謝することに感謝を申し上げたい。函館校が新しい時代の流れを受けて次の百年に向かいさらに発展するよう、会員各位が大学の歩みを支えていくことで、教育課題解決と改革さらには後輩の育成にいつそのの尽力をお願いしたい」とのお言葉がありました。最後に本年度百周年を迎えた母校より

星野立子副学長が壇に立たれ、函館市長はじめ道南各地の首長、教育長の皆さんの函館校に対する支援に対しての丁寧な謝辞が述べられました。また六月七日に開催された百周年記念式典で、三名の方に感謝状を贈ったことや支援団体である夕陽会にも感謝状を贈ったことが報告され、「今後も新たなスタートを切った函館校への支援をお願いしたい」と語られました。

続いて、恒例の新入会員の紹介です。本年度も石山 史中島小学校教頭の進行により、七名の教職の新会員が紹介されました。会場には大きな拍手と声援がわき起こりました。教職員の中には、民間企業勤務からどうしても教員になりたいという夢を実現された新会員もいらつしやり大きな拍手を受けました。

次に、田中健一渡島管内町村教育委員会連絡協議会教育長部会長が「函館校に教員養成機能が存続されたことを皆さんとともに心から喜びたい」と語られ、祝杯のご発声で祝宴が幕を開けました。今年も会場内は各卒業年次ごとの席で、互いに若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に帰ったように、語り合う姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気に満ち溢れる雰囲気になりました。

祝宴の中で、昨年、山梨全県区より参議院議員に当選した昭和五十五年卒の同窓、森屋宏氏より学生時代の思い



エール

出を交えながらのご挨拶がありました。

宴も佳境に入り、恒例のエールを今年も打越亮介先生(平成二十二年卒)と須藤健吾先生(平二十四年卒)の名コンビが熱演、会場を大いに沸かせました。



寮歌大合唱

いよいよ閉会が近づくと、トリを飾る寮歌の大合唱が始まりました。諸先輩方が背に「夕陽」の揃いの法被姿で登壇すると、会場の雰囲気はさらに盛り上がり、小林周次先生(昭和三十三年卒)の音頭で、母校に対する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。余韻が覚めやらぬ中、乾杯の時間となりました。壇上に立った山本真也函館市教育委員会教育長は「この懇親会に出て、三回目となるが、自然と寮歌や夕陽讃歌を誦んじている自分がこわい」とユーモアをもって語り、今後の夕陽会の発展を願って乾杯の音頭を取り、宴はお開きとなりました。最後に高橋登副会長が閉会を宣言し、天野哲征副会長の先導でご来賓の方々が登場され、本年度の夕陽会大懇親会も大盛会のうちに終了しました。

平成二十七年度は六月二十日(土)に、同会場函館国際ホテルにおいて、夕陽会本部総会ならびに大懇親会を開催する予定です。万障お繰り合わせの上多くの会員諸氏がごぞって集い、同窓の輪をひろげようではありませんか。

(昭和60年卒 湯川小教頭 樫野人範記)

平成二十六年度

夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

副会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。

(1) 各界の会員動態の把握と広報活動の充実。

(2) 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。

(3) キャンパス再編・新学科に対応した教職外会員の入会促進。(重点事項)

(4) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。

(5) 夕陽会報213、214、215号の発行と電子の発行・配付の試行。(重点事項)

2 人材の育成

人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。

(1) 会員である道・市町村議会議員、首長部局職員、教育行政・管理職等との連携。

(2) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

(3) 指導主事及び教頭等の学校管理職候補者の発掘と育成。

(4) 高民間企業、地方公共団体に勤める若手会員の中核となる人材の育成。(重点事項)

3 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

「つなぎ」、「集う」視点から、諸事業の再構築と財政の効率的な運用に努める。

(1) *夕陽会100周年を見据えた計画的な財政基盤の整備。(重点事項)

(2) 諸業務、諸事業の見直しと再構築。各支部と連携した諸会費の納入への取組。

4 研究・研修、文化事業の奨励

会員による個人及び協働の研究等を奨励し、明日の夕陽を担う会員等の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(2) 各支部の研究活動等の支援。(重点事項)

(3) 「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。

5 母校への支援と地域への貢献

母校の継続と発展を願い、新学科の支援を行う。

(1) *母校の教授対策関係事業、就職対策関係事業への支援。(重点事項)

(2) 在学生(会員予定者)に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の実施。(重点事項)

(3) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(4) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

6 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

改修された夕陽記念館への、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用を努める。

(1) 会員の作品、記念資料等の収集と会報やWebページでの周知。

(2) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備。

(3) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放などの検討。

(4) 100周年記念事業に向けた諸資料の計画的収集・整理・アーカイブ化。(重点事項)

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

永井 貴之(附属小副校長)

1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関する事

財政部

林 敏雄(七飯中長)

1 通常会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関する事

組織部

齊藤 藤藤(附属幼稚園長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)

3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全般に関する事

情宣部

古川 谷邦彦(高丘中長)

1 「夕陽会報」の発行

2 事務局報の発行

3 その他、情宣に関する事

web委員長
鳴海 裕(中央小長)

文化部

佐藤 洋子(千代田小長)

1 会員の文化活動に対する支援

2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施

3 その他、文化に関する事

研修部

風間 和夫(桐花中長)

1 会員の地位向上対策

2 会員の個人及び共同研究への助成

3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4 その他、研修に関する事

厚生部

工藤 勉(大川中長)

1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2 記念資料及び会員の作品収集

3 夕陽記念館の整備、充実

4 その他、厚生に関する事

平成二十六年度 夕陽会本部役員名簿

[illegible]

平成二十六年 支部役員名簿

(札幌市)

長 遠藤 裕志 昭53 札幌市 中央小長
副 宇留間 準 昭55 札幌市 北辰中長
副 森田 純雄 昭52 札幌市 前田北小長
副 西田 隆雄 昭54 札幌市 栄小長
副 中田 勝広 昭54 札幌市 北野台中長
幹 本間 玲子 昭55 札幌市 稲積中長
会 加藤 貴子 昭59 札幌市 きくすいもとまち幼長

(石狩)

長 浅野 雅文 昭52 江別市 中央中長
副 谷川 季文 昭54 江別市 江別第三小長
副 小島 雅人 昭54 江別市 上江別小長
副 河野 修一 昭55 千歳市 北栄小長
幹 東口 明雄 昭57 北広島市 緑ヶ丘小長
会 北野 敬和 昭58 石狩市 双葉小頭

(後志)

長 長谷川 誠 昭53 東中長
副 渡邊 清 昭55 喜茂別町 鈴川小長
副 東堂 亮 昭55 岩内町 岩内第一中長
副 松田 安弘 昭56 京極町 京極小長
幹 新井 融 昭59 二七町 二七小長
会 丸岡 哲也 昭59 古平町 古平小頭
会 原田 益明 昭59 俱知安町 俱知安小頭

(小樽市)

長 木村 公全 昭54 入船小長
副 洪谷 和則 昭54 小樽市 北山中長
副 寺澤 真 昭55 小樽市 稲穂小長
副 小友 和法 昭56 小樽市 奥沢小長
副 上泉 哲 昭58 小樽市 高島小長
幹 柴田 眞公子 昭58 小樽市 北手宮小長
会 日下部 匡彦 昭58 小樽市 朝里小頭

(上川)

長 森 将人 昭57 旭川市 旭川小長
副 近藤 初美 昭53 名寄市 中名寄小長
幹 清水 孝徳 昭61 美深町 美深小頭
会 佐藤 幸子 昭56 旭川市 啓明小頭

(宗谷)

長 長谷川 富夫 昭57 豊富町 兜沼小長
副 佐藤 佳弘 昭61 枝幸町 歌登中頭
幹 三野 誠一 昭54 枝幸町 乙忠部小頭

(留萌)

長 秋葉 良之 昭54 留萌市 留萌小頭
副 高木 昌行 昭52 留萌市 倉熊小頭
幹 熊倉 一弘 昭53 留萌市 増毛中頭
会 中野 恵 昭52 留萌市 増毛小頭
長 尾形 政之 昭52 せたな町 瀬川中長
副 坂田 藤和 昭55 江差町 江差小長
副 木村 英明 昭56 せたな町 久遠小長
幹 村田 史昭 昭57 乙部町 乙部小長
会 村田 史昭 昭59 乙部町 乙部小頭

(渡島)

長 高橋 伸夫 昭53 福島町 福島小長
副 山崎 晃 昭54 北斗市 萩野小長
副 木村 孝 昭54 北斗市 石別小長
幹 竹嶋 充 昭56 七飯町 峠下小長
会 小笠原 英緒 昭57 北斗市 島川小頭

(函館市)

長 三館 千春 昭54 函館市 鍛冶小長
副 風間 和夫 昭57 函館市 桐花中長
幹 加賀 重仁 昭62 函館市 市教委教育指導課長
副 高間 猛 昭62 函館市 鍛冶小頭
幹 高間 猛 昭62 函館市 鍛冶小頭

(空知)

長 千葉 潤 昭53 第一小長
副 山崎 優 昭55 砂川市 砂川中長
副 南條 宏 昭57 月形町 月形小長
幹 石垣 正公 昭55 深川市 一巳小長
会 佐藤 正 昭55 美唄市 東中頭
会 大門 正人 昭63 滝川市 江部乙中頭

(胆振連合)

長 安宅 錦也 昭57 登別市 富岸小長
副 奥崎 彰裕 昭53 伊達市 東小長
副 油谷 論 昭53 厚真町 上厚真小長
副 傳法 満 昭55 登別市 若草小長
幹 新沼 潔 昭59 壮瞥町 壮瞥中長
会 井内 宏磨 昭59 白老町 白老中頭

(苫小牧市)

長 寺田 洋子 昭53 東小長
副 反保 秀規 昭55 苫小牧市 若草小長
副 荒谷 敏也 昭52 苫小牧市 沼ノ端中長
幹 鈴木 照史 昭56 苫小牧市 北光小長
会 瀧澤 義守 昭63 苫小牧市 沼ノ端中頭
会 瀧澤 義守 昭63 苫小牧市 凌雲中頭

(室蘭市)

長 南部 務 昭52 室蘭市 東明中長
副 太田 憲明 昭54 室蘭市 知利別小長
副 八田 由紀子 昭52 室蘭市 旭ヶ丘小長
副 中島 博勝 昭53 室蘭市 室蘭西中長
幹 小島 範夫 昭55 室蘭市 本室蘭中長
会 小林 俊文 昭62 室蘭市 桜蘭中頭

(日高)

長 高野 卓也 昭53 新冠町 新冠中長
副 久保田 達也 昭55 新冠町 新冠小長
副 大石 恭義 昭59 浦河町 野深小長
幹 金澤 英明 昭60 えりも町 えりも小長
会 中山 英明 昭61 新冠町 新冠小頭

(帯広十勝)

長 河合 昇男 昭53 帯広市 つつじが丘小長
副 横山 徹 昭53 陸別町 陸別小長
副 安藤 徹 昭54 音更町 音更小長
副 若狭 重人 昭56 音更町 屈足南小長
副 中村 真也 昭59 音更町 柳町小長
幹 花井 寛 昭57 帯広市 西陵中長
会 森下 寛 昭57 帯広市 東土幌小頭

(釧路)

長 合田 晃子 昭52 釧路市 中央小長
副 磯部 昇一 昭52 釧路市 仁々志別小長
幹 鳴海 邦厚 昭58 厚岸町 真龍中頭
会 阿部 邦厚 昭58 厚岸町 白糠小頭

(根室)

長 盛 繁治 昭57 羅臼町 春松小長
副 大森 伸 昭57 別海町 野付中長
副 吉川 禎 昭57 根室市 北斗小
幹 今井 浩文 昭62 別海町 上風連中頭
会 打川 真由美 昭62 別海町 中春別小頭

(網走連合)

長 西村 榮基 昭56 斜里町 斜里中長
副 竹村 博英 昭58 湧別町 湧別中長
副 佐藤 俊 昭59 訓子府町 訓子府小長
幹 藤下一 己 昭59 美幌町 東陽小長
会 高藤 学校 昭59 美幌町 東陽小長

(特別支援学校)

長 木村 健治 昭54 新篠津村 新篠津高等養護長
副 矢野 光男 昭56 小平町 北海道小平高等養護
副 矢口 明 昭60 釧路市 北海道釧路鶴野支援
幹 和倉 歩 昭63 函館市 附属特別支援

(青森津軽)

長 白取 清彦 昭46 青森市 八幡林字熊谷41-2
副 渡邊 和雄 昭51 平川市 金田小頭
副 木村 公昭 昭56 弘前市 県立弘前第二養護
副 工藤 浩 昭63 青森市 県立青森第二養護
幹 湯田 秀樹 昭52 青森市 県立青森第二養護
会 帰山 幸博 昭52 青森市 県立青森第二養護

(青森西北五)

長 高橋 宏彰 昭59 鶴田町 富士見小頭
副 木村 修治 昭61 つがる市 市教委指導主事
幹 澁谷 隆行 昭54 板柳町 板柳南小頭
会 佐々木 康栄 昭54 青森市 青森県教育庁学校教育課

(青森南部)

長 田名部 喜郎 昭53 八戸市 多賀小長
副 木村 功 昭54 八戸市 鮫小頭
副 芦名 均 昭56 五戸町 蛇川小長
副 大浦 和典 昭58 八戸市 柏崎小頭
副 鈴木 稔 昭58 八戸市 多賀小頭
幹 中川 俊也 昭59 八戸市 第三中頭
会 小松 生大 昭59 五戸町 切谷内小頭
会 小笠原 一男 昭54 おいらせ町 甲洋小頭

(岩手)

長 田面 茂樹 昭48 奥州市 協和学苑水沢第一高相議員
副 村上 政悟 昭51 盛岡市 東中野字五輪10-23
副 熊谷 勇夫 昭52 花巻市 花巻中長
副 金沢 道子 昭50 宮古市 山口5-8-2
会 橋田 孝平 昭57 滝沢村 鶴飼小頭
長 高橋 紀彩子 昭52 文京区 東京都職員センター教授
副 狩野 武雄 昭49 世田谷区 三軒茶屋小長
副 森屋 文樹 昭52 世田谷区 昭和女子大学大学院教授
幹 相川 哲也 昭55 大田区 参議院議員
会 相川 哲也 昭55 大田区 参議院議員



就任ご挨拶



副会長就任にあたって

副会長 小笠原 正司
(昭和52年卒 北斗市立上磯中学校長)

この度、長い歴史と伝統のある夕陽会の副会長という大役を仰せつかりました。橋田会長はじめ、役員の皆様方のご指導を賜りながら、夕陽会発展のために微力ではございますが、精一杯努力したいと考えております。

私は昭和五十二年に母校を卒業し、胆振管内の壮瞥町立蟠溪中学校に採用されました。壮瞥町では夕陽の仲間も多くいました。北師会の教師も沢山いたように思います。年に一度の夕陽会壮瞥支会の懇親会が楽しかったことを覚えています。その後、恵山町立東光中学校(当時、尻岸内町立東光中学校)へ異動となり、沢山の夕陽の仲間と仕事が出来るように



就任にあたって

副会長 高橋 登
(昭和53年卒 函館市立的中学校長)

この度、函館市中学校校長就任に伴い、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。橋田会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の充実・発展のために精一杯努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、昭和五十三年三月に母校を卒業し、四月より胆振管内伊達市立有珠小学校優健分校に採用されました。生まれ育った函館の地を離れることや、教師としての道を踏み出すことへの不安を背負いながらのスタートでした。しかし、幸いなことに、着任した伊達市の小中学校には、優れた指導力を持った夕陽の先輩方が沢山いらして、初任研修や各種交流

会、教科研修会などで熱心な指導を頂くとともに、温かい励ましの言葉をかけてもらい、本当に心強く感じたことが今でも忘れられません。そして、そんなお世話になった先輩方に、何の恩返しもしできないままに、函館に戻ることもありませんでした。その後の教職生活でも、夕陽会の管理職の皆様をはじめ諸先輩からは、生徒指導のイロハ、保護者対応、そして学校運営の大切さと厳しさを熱く指導して頂きました。現在の自分があるのは、まさにそのおかげです。この度の就任を機に、少しでも恩返しができるかと同時に、本会のためにお役に立てるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



就任にあたって

副会長 岡村 宏安
(昭和54年卒 厚沢部町立厚沢部小学校長)

この度、夕陽会副会長という大任を仰せつかりました。微力ではございますが、橋田会長はじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の一層の発展のために精一杯努力したいと考えています。

昭和五十四年三月に卒業以来、その時々、各赴任地で夕陽会の皆様方に力強く励ましていただきました。

私は、昭和五十四年宗谷管内の稚内市立宗谷小学校に採用されました。生まれが函館市、育ちが八雲町でしたので、宗谷管内には知り合いも親戚もおらず、細かい気持ちでいっぱいでした。

しかし、その不安を払拭してくださったのが同窓の先輩でした。稚内市の小学校、中学校に勤務されている諸先輩、教



副幹事長に就任して

副幹事長 齊藤 藤藤 縁
(昭和60年卒 附属函館幼稚園副園長)

この度私は、副幹事長(兼組織部長)を仰せつかりまして、その重責に身の引き締まる思いでおります。しかし微力ではあります。精一杯努力する所存でございます。皆様の御指導・鞭撻のほど、よろしくお願いしたいと存じます。

私の幼い頃から描いていた夢を叶えるために北海道教育大学函館校に入学すること強く薦めたのは、卒業した大学から離れた北海道で教員となった父でした。その頃の私は父の気持ちを深く考えることはしませんでした。しかし、渡島の小学校で新採用の私を親身になり育てて下さった諸先輩のありがたさ、次に同窓生のいいない道立高校に赴任した時の寂しさ、

育行政にいらつした先輩から親身なご指導をいただきました。一般教諭で宗谷管内枝幸町、渡島管内知内町、函館市と異動しましたが、その赴任地において心強い助言もいただきながら職務に励むことができました。その後、檜山管内乙部町、江差町、今金町、上ノ国、厚沢部町にお世話になり、檜山管内において学校経営推進にあたり特に、同窓の方々にご支援いただいたところでした。

私は、夕陽会のおかげで教師の道を歩めることに感謝しております。この度の就任を機会に、少しでも恩返しできるように頑張りますので、よろしくをお願いいたします。

そして、たぐさんの同窓生がいる函館市内の中学校に戻った時の懐かしさ、そこから渡島の小学校管理職となった時の仲間のいる心強さなどを転動で地域と校種が変わる度に感じ、今は亡き父のその時の思いと同窓会の意味をしみじみかみ締めようになりました。

そしてこの春、創立百周年を迎えた大卒業した附属学校は、昔と変わらないうまいで、私を迎え入れてくれました。尊敬する先輩方や元気な後輩たち、そして信頼できる同級生に囲まれたこの環境で私は、夕陽会の一層の発展のため、誠心誠意を尽くす決意しております。



就任にあたって

(昭和63年卒)

副幹事長 永井井貴井之

北海道教育大学附属函館小学校副校長)

この度の総会において、附属函館小学校副校長という立場から副幹事長(庶務部長)を仰せつかることになりました。

これまで、各支部や支会における役職の経験はありましたが、本部の業務は初めてですので、大任を担う重圧を感じつつ、微力ながら精一杯職責を果たす決意を新たにしているところでございます。

この春、代行という立場で北海道内数カ所の支部の総会・懇親会にお邪魔をして参りましたが、どの地においても同窓の絆によって人的なネットワークが広がったり、互いに支え合って困難を乗り越えたりしているという話を耳にしまし

た。函館を離れ、母校への思いや仲間意識を活動源にしている方が大勢いることを実感しているところです。

そうしたことから、本部の活動が全道各地にエネルギーを発信しているということに自覚しながら、業務に努めて参りたいと考えますとともに、この役割だからこそ得られるたくさんのお会いを楽しみにしております。

会員の皆様、諸先輩の皆様には、不慣れで未熟なため、ご迷惑をおかけすること多いとは思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

受賞(章)おめでとうございます

※瑞宝双光章(高齢者叙勲3/1)

千葉 寿郎 氏(昭22年卒)

小樽市若竹町二六の二〇

※瑞宝双光章(高齢者叙勲4/1)

谷地田収一 氏(昭20年卒)

音更町木野西通一五の五の四の一〇五

※瑞宝小綬章(春の叙勲4/29)

住山 明 氏(昭28年卒)

札幌市中央区北二西二四の一五六の三二〇

※瑞宝小綬章(春の叙勲4/29)

辻 信哉 氏(昭32年卒)

函館市富岡町一の二五の一六

※瑞宝双光章(高齢者叙勲5/1)

伊藤 佳郎 氏(昭23年卒)

札幌市南区澄川六の一の一〇の一六

※瑞宝双光章(高齢者叙勲6/1)

河村 政吉 氏(昭22年卒)

北見市寿町六の四の一三

※瑞宝双光章(高齢者叙勲6/1)

能代 栄仁 氏(昭28年卒)

札幌市厚別区厚別北二の四の一の三

〇C一〇〇一の一〇一

全国支部長会議

「つながる」「集う」を視点に各支部の本音と悩みについて交流

平成二十六年年度の全国支部長会議は函館国際ホテルで六月二十一日(土)午後一時三十分より開催された。

司会進行は永井庶務部長、議長は繪面伊藤副会長が務め議事が進められた。

会議では、議事の冒頭で、橋田会長が「会長として七回目の支部長会議を迎えることになった。今、全員で夕陽讃歌を歌いながら八十周年を記念して作られたこの歌が、今やどの場面でもごく自然に歌われるのを感じて大変嬉しく思う。会員の減少は今やどの同窓会でも大きな課題だが、夕陽会も今後どのように同窓会を維持、活性化させていくのか、各支部より率直なご意見をいただきたい」と述べた。

後半の各支部からの報告・交流では、「つながる」「集う」を視点にした各支部の活動状況等の交流が行われ、参加した二十二支部すべてが、各支部の現状と抱える課題について発言した。

各支部の発言をまとめると①現職会員の一層の掘り起こしが課題②若手会員の中核となる人材の育成が急務③年齢構成や方面毎にきめ細かく部会を組織し効果をあげている。④教頭候補者の発掘と会合参加者をどう増やすかが課題⑤ネットワークづくりを行い、管理職以外の会員をどう集めるかが課題等が主なものであった。

また、来年度より、室蘭支部・苫小牧支部・胆振連合支部の三支部を統合し、オール胆振で活動を行う準備中であるとの報告が関係支部よりあった。

さらに本部に対する意見・要望として

①より使いやすく持ち運びしやすい会員名簿という観点から、サイズをA4版に変更してほしい。

②会員の掘り起こしのため、さらに経費節減に努力し、会費の値下げに努力してほしい。

③教員外の入会促進を目指し、二十年后、三十年後の夕陽会の姿をイメージした明確なビジョンをもって本部事業を見直してほしい。

等の声が寄せられ、奥崎幹事長も、「今後は教職外会員の発掘と、一層の事業の整理・統合、再構築が必要だ」と述べた。

お知らせ

北海道教育大学本部では寄付(教育支援基金)を募集しています。詳しくは夕陽会ホームページをご覧になるか、夕陽会事務局へお問い合わせください。

・母校百周年に寄せて、大先輩からお便りをお寄せいただきました・

母校百周年に寄せて： 先輩からのエールのお便り

わが一族夕陽一家

古川谷川川川
(昭和39年卒)

わが家の家系は夕陽そのものである。

先ず私が昭和三十七年卒の学芸大学第十回生であるし、すでに死亡したが私の兄二人も共に夕陽である。長兄の宏は昭和二十四年卒の第二師範第六回生で、次兄格は昭和二十七年卒の学芸大学Ⅱ類二回生である。

加えてこの兄二人のそれぞれの連れ合いもまた夕陽であり、何と私の連れ合いまで夕陽ときている。

その他親戚等にも夕陽の関係者は多い。そんな訳で、私が高校卒業の頃の正月に一族が某所に集まれば、即夕陽出身の小・中学校の職員室に化した。

それが嫌で私は学芸大学函館分校にだけは絶対入るまいと思った。しかし、いつの間にか古い木造校舎の廊下の上を下駄で歩いてた。だがしかし私は小・中学校の職員室には縁のないようにという願いがあったので、大学で高校教員の資格を取り、試験に合格して、札幌等全道各地で夕陽魂を高校生に伝授し、ついには釧路湖陵高校では「亀田のイモ」と言

われながらも夕陽教頭として教員と張り合い、登別の高校では加賀先生の論語の講義を思い浮かべながら校長としての最後の授業を終えることができた。

ところで、私は自分が子どもの頃、家にあつた立派な第一号と書かれている厚紙の裏に何の躊躇もなく悪戯書きをした事がある。それが「夕陽会館」にあるという。紛れもなくそれは私の親父の卒業証書だ。親父は大正七年卒業函館師範学校第一部第一回生である。その頃は成績順の卒業証書だったという。親父はその後母校の訓導になつて倫理を担当していたらしい。教えず、つまり夕陽会員も多いようだ。名を全(たもつ)という。三以上のように、私の家の一族は皆夕陽出身者で「夕陽一家」と言わせてもらつても罰は当たらないどころか夕陽会様々と言わねばなるまい。

その母校が今年百年を迎えるという。ますますの発展を願うのは私ばかりではないと思う。

会務報告



幹事長
奥崎 敏之
(昭和60年卒)

《一般会務・函館校関連の動き》	
7/8	函館校の新学科説明会が開催される。(函館)
7/19	渡島支部支会長会議に橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(七飯)
9/21	青陵会90周年記念式典が開催され、橋田会長が出席する。(石見沢)
9/23	旭川校90周年記念行事に橋田会長が出席する。(旭川)
9/27	第1回役員会が開催される。(函館)
10/12	指導主事当会の勉強会が開催され、橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(札幌)
10/19	道央ブロック会議が開催され、橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(札幌)
10/27	5分枝会長会議が開催され、橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(札幌)
10/30	寺島町長と橋田会長が懇談する。(函館)
11/5	工藤市長と橋田会長が懇談する。(函館)
11/8	高谷市長と橋田会長、天野副会長が懇談する。(函館)
11/16	道東ブロック会議が開催され、青柳副会長が出席する。(釧路)
12/17	5分枝会長・学長懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)
1/6	函館校100周年記念に夕陽会より寄付を贈呈する。(函館)
1/6	在札幌指導主事等会激励会に古旗参与が出席する。(札幌)
1/20	夕陽文化事業(音楽、書道、美術)の今後の見通しについて、本部と文化部が会合を行う。(函館)
1/25	日胆ブロック会議・胆振連合支部総会に橋田会長が出席する。(室蘭)
1/29	5分枝会長と道教委立川教育長との懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)
2/6	函館市支部顧問会議に橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(函館)
2/21	夕陽受賞祝賀会が開催される。(函館)
3/13	夕陽会・道南の教育を考える会の拡大役員会が開催される。(函館)
3/17	函館校の卒業式に橋田会長・繪面副会長が出席する。(函館)
4/2	北海道教育大学合同入学式に橋田会長が出席する。(札幌)
5/23	会計監査を行う。(函館)
5/30	夕陽教育フォーラムを開催する。(函館)
6/6	第3回役員会を開催する。(函館)
6/7	北海道教育大学函館校創立100周年記念事業が挙行される。(函館)
6/13	第4回本部役員会、顧問・参与会議を開催する。(函館)
6/21	平成26年度全国支部長会議・本部総会・懇親会を開催する。(函館)
6月	《支部総会・懇親会・同期会・個展等》
6月	水彩画・油彩画・デザイン8人展、北斗支部総会、長万部支部総会、鹿部支部総会、首都圏支部総会、七飯支部総会、福島支部総会、森支部総会、木古内支部総会、30年同期会、鶴岡支部総会、38年同期会、松前支部総会、高校支部総会、岩手支部総会、37年同期会、26年同期会(桐の会)、体育科同窓会、北師同窓会、渡島支部総会、六枝会渡島同窓会、海峡クラブ懇親会、室蘭支部総会、札幌支部大忘年会、特別支援学校支部総会、青森西北五支部総会、網走連合支部総会、渡島支部勇退者激励感謝の会、日高支部勇退者激励会・懇親会、小牧支部勇退者激励会、檜山支部総会・先輩を送る会、函館市支部総会、空知支部総会、札幌市支部総会、釧路支部総会、八雲支部総会、室蘭市支部総会、広十勝支部総会、渡島支部総会、上川支部総会、石狩支部総会、函館市支部幹事会、小樽市支部総会、後志支部総会、苫小牧支部総会、後志支部総会、苫小牧支部総会、知内支部総会、長万部支部総会、松前支部総会、北斗支部総会、首都圏支部総会

函館校創立100周年記念事業を開催

2014 / 6 / 7 函館国際ホテル



函館校創立百周年記念式典を終えて

北海道教育大学副学長(函館校担当) 星 野 立 子

夕陽会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この六月七日(土)に函館校創立百周年記念式典・祝賀会が開かれました。記念式典に先立って、戦場カメラマンの渡部陽一氏による記念講演会が開催されました。

渡部氏の講演は「世界からのメッセージ〜希望ある明日のために」というテーマで、戦争の最大の犠牲者は子どもであると訴え、マララ・ユスフザイさんが国連スピーチで教育の重要性を訴えた部分を引用し、子どもの教育がいかに重要であるかを唱えました。この講演は、教育大学への激励の言葉と言えるものでした。その後の記念式典・祝賀会は、多くの方々のご参加とご協力のもとに盛大にかつ有意義に終了いたしました。とりわけ夕陽会の皆様には多数のご参加をいただき、誠にありがとうございました。

百年という節目の年、函館校は平成十八年の改組に続く大きな改組、人間地域科学課程から国際地域学科への改組を迎えました。

国際地域学科の目的は、国際的な視野と教育的なマインドを持ち、豊かなコミュニケーション能力を発揮しながら、地域を活性化できる人材の育成です。

本学科は地域協働専攻(定員二四〇名)と地域教育専攻(定員四五名)の二専攻から成っています。

地域協働専攻は、地域学の知識等を持ち、グローバル化した現代社会の地域学的問題を俯瞰的に捉え、国際的視野を

持つ地域社会の諸問題の解決のために積極的かつ主体的に行動できる人材の養成を掲げており、国際協働グループ、地域政策グループ、地域環境科学グループで構成されています。

地域教育専攻は、地域の教育的課題解決に主体的に取り組み、国際性を持った子どもたちを育成するとともに、特別なニーズのある子どもへの支援に先導的に取り組むことができる人材の養成を掲げています。

今回の改組に関しては紆余曲折がありました。この間、夕陽会の橋田恭一会長をはじめ皆様方には大変お世話になりました。その深い感謝の意を、ささやかではあります。記念式典において感謝状の形で示させていただきました。

今後、函館校はこれまで以上に地域と連携を取りながら、地域の「知」の拠点として、地域に人材を輩出する役割やリカレント教育の役割を担い、同時に、学生たちが幅広く可能性を探ることができ、環境を整えていきたいと考えています。六月二十一日には夕陽会大懇親会にご招待いただきました。そこで「夕陽讃歌」(佐藤任作詞、寺中哲二作曲)が厳かに歌われた際に、今年三月九日にご逝去された寺中哲二名誉教授に対する哀惜の念と、このように大事に歌い継がれていることに對する静かな喜びを覚えました。

夕陽会の益々のご発展を祈念し、今後の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

百周年記念誌



会場に開設された師範学校関連資料コーナー



戦場カメラマン渡部氏の講演会パンフ



祝辞を述べる
本間学長



主催者側挨拶を述べる
橋田会長



挨拶に立つ
星野副学長



表彰のため
ステージに立つ4氏



祝辞を述べる
成田教育局長



祝辞を述べる
工藤函館市長

記念式典および記念祝賀会風景



表彰を受ける
繪面副会長



表彰を受ける
信田総務



表彰を受ける
岩船氏



祝賀会で祝辞を述べる
川島前会長



祝賀会で挨拶する
安島元会長



夕陽会を代表して表彰を受ける
天野副会長

前納会費納入会員名簿追加分

鈴木 昭51	杉崎 昭51	品田 昭51	田邊 昭51	大澤 昭52	石岡 昭51
函館	函館	函館	函館	函館	函館
堀川 昭54	横山 昭53	五十嵐 昭52	中谷 昭52	黒丸 昭51	鈴木 昭51
函館	函館	函館	函館	函館	函館

(平成二十六年六月二十日現在)

夕陽会員計報

工藤 富雄氏 昭21	函館市東山2の20の1	25・3・10	明子氏	國忠 敏二氏 昭16	旭川市豊岡2の8の8の13	26・3・30	比紗子氏
山崎 北啓一氏 昭21	札幌市中央区南18西15の2の25の307	21・10・28	眞佐子氏	笹谷 幸三氏 昭19	札幌市北区北40西5の4の10の302	26・4・6	恵子氏
小田嶋 (村田) 恭氏 昭17	湯沢市岩崎72	25・12・5	房子氏	町田昭之助氏 昭28	札幌市西区山の手3の11の1の24の303	26・4・18	温子氏
遠藤 一郎氏 昭23	函館市高盛町9の10	26・2・6	幸嗣氏	眞野 道良氏 昭20	函館市日吉町1の25の24	26・4・19	良氏
高屋 泰男氏 昭31	札幌市東区北38東1の4の16の103	26・2・21	伸子氏	鈴木 幸雄氏 昭31	七飯町大川8の9の20	26・5・1	斐子氏
大和田裕夫氏 昭24	室蘭市増市町1の15の21	26・3・3	英彰氏	見上 忠男氏 昭34	函館市高丘町49の6	26・5・1	ツエ子氏
納 博之氏 昭51	苫小牧市若草町5の5の12	26・3・7	壽子氏	山本 善保氏 昭31	江差町南が丘7の41	26・5・7	チヨエ氏
寺中 哲二氏 昭31	函館市日吉町3の7の28	26・3・9	洋子氏	奥崎 昭夫氏 昭27	北斗市七重浜8の10の9	26・6・1	光子氏
石川 昭二氏 昭23	函館市湯川町3の14の21	26・3・19	恵美子氏	笹森 秀雄氏 昭20	札幌市北区新琴似11の4の8の13	26・6・13	ノブ氏
三村 枝満治 (基徳) 氏 昭14	札幌市西区発寒6の11の1の41	26・3・19	徹氏	阿部 徹氏 昭32	函館市桔梗町59の29	26・6・12	洋子氏
福島昭三郎氏 昭24	伊達市梅本町10の7	26・3・25	康子氏	小澤 本 叙氏 昭32	函館市見晴町9の8	26・6・19	順子氏

(平成二十六年六月二十日現在)

夕陽「明日の教師養成塾」のご案内

- 日時 平成26年7月26日(土)、27日(日)
- 会場 北海道教育大学函館校4号棟特別教室
(函館市八幡町1-2 TEL0138-44-4411)
- 対象 教職を目指す北海道教育大学函館校過年度卒業生など
- 日程 7月26日(土) 9時~17時
7月27日(日) 9時~15時30分
- 内容 模擬授業の実際 集団面接指導
個人面接指導
- ※自己推薦書コピーを必ず持参のこと
- 申し込み 7月18日(金)までに
夕陽会 組織部までFAXにて申し込みのこと
- 電話0138-46-2237 FAX0138-47-8731
附属函館幼稚園内 夕陽会組織部 齋藤 縁

編集後記

◆会報第二一三号をお届けいたします。
今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。
◆今号の巻頭写真は六月七日に行われた母校創立百周年記念式典の風景です。夕陽会も今年創立九十六年、あと四年で百周年を迎えます。
◆百周年を区切りとして四月から新たにスタートした「国際地域学科」が道南の未来に大きな役割を果たすようこれからも皆で支援していくことが大切かと思えます。
◆今回の母校百周年に寄せて、ご家族の夕陽会に対するエピソードをお寄せいただいた昭和三十七年卒の古谷先生にこの場を借りて心よりお礼を申し上げます。

◆ぜひ掲載してほしい情報・取材してほしい題材等、どしどし本部事務局や情宣部にお知らせください。お待ちしています。特に同窓会の百周年にまつわるものや同期会の様子、かつての研究室やサークルの様子など歓迎いたします。
(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局

電話番号(0138) 46-2235
夕陽会専用(0138) 34-5520
FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)